

安全性高め合併症減少 数日でも気道炎症改善

皆さん、手術の前に禁煙が必要な医療行為であり、手術が必要だと存じて手術の安全性を高めるためよ。手術を控えた患者さんに「今日から禁煙をお願いします」とお伝えすると、驚かれる方が少なくありません。「長年吸ってきたのに、今更何

健康ファイル

愛媛県医師会

か変わるのか？」という疑問を持たれるのは当然です。たばこは生活習慣に深く結びついており、急にやめるのは簡単ではありません。しかし実際には、手術前の禁煙は、今からでも効果がある。重

手術前の禁煙

松山市民病院麻酔科 寺尾 欣也

が届かず、傷の治りが遅れたり（非喫煙者と比べ約1・6倍）、感染を引き起こしたり（同約1・3倍）するリスクが高まります。さらに、喫煙は肺の機能を低下させ、麻酔中や手術後の呼吸器合併症を増加させることが知られています（非喫煙者と比べ少なくとも1・5倍）。肺炎や無気肺、たんが出にくくなるなどの症状は回復を妨げ、重症化すれば命に関わることもあります。喫煙の悪影響は「肺に悪い」という一般的なイメージ以上に、医療現場では深刻な問題です。では、いつから禁煙すればよいのでしょうか。

理想は手術の1カ月以上前からですが、そこまで時間を確保できない方も多いと思います。ご安心ください。2週間前、さらには1週間前からでも効果があり、気道の炎症は禁煙後数日で改善し始めます。「もう遅い」ということはなく、「始めた時点から改善が始まる」が正しい理解です。手術前はご自身の健康と向き合う貴重な時期です。「手術を安全に迎える」という明確な目標があると、禁煙は成功しやすいくなります。医療側も、ニコチンパッチや内服薬を用いて離脱症状を抑えながら、無理のない禁煙を支援できます。不安が

あれば、医師や看護師、禁煙外来に遠慮なく相談してください。

禁煙が手術の安全性を高めることは、揺るぎない医学的事実です。そして、禁煙の開始時期はいつからでも遅くありません。手術をきっかけに禁煙を始めた多くの患者さんが、手術後の回復を順調に進め、その後も禁煙を続けています。「今日から禁煙をやってみよう」。その一歩が、安全な手術と健やかな未来への入り口です。手術を控える患者さんが、少しでも前向きに禁煙へ踏み出していただければ幸いです。

〈第3火曜日に掲載〉

県医師会ホームページ <http://www.ehime.med.or.jp/>